

Green Brave

GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 第1戦



2022年7月16日(土)~17日(日)
富士スピードウェイ(静岡県小山町)

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ

■ ■ ■ 吉田選手8位入賞、地頭所選手は 11 台抜きの11位 ■ ■ ■

GAZOO Racing GR86/BRZ Cup は9年間続いた 86/BRZ Race を引き継ぐ形でスタートした、新しいワンメイクレース。車両がトヨタ GR86 もしくはスバル BRZ の Cup Car Basic に一新された他、プロシリーズはサスペンションやマフラーなど、選択できる機能部品も増え、ドライバーの技量はもちろん、チーム間の技術競争も白熱することが予想されています。

Green Brave のドライバーは GB ドライバーの吉田選手と 86GB キャンプの地頭所選手。クラスはどちらもプロフェッショナルシリーズで、エントリー台数は39台です。予選日(土曜日)の天候は雨。雨が強まる可能性があるため、多くの選手が予選開始の合図とともにコースイン。吉田選手と地頭所選手もピットアウトしています。周回数が増えるにつれ、各選手のタイムは上がっていき、吉田選手は9周目に2分13秒965をマーク。予選13位につけました。地頭所選手は濡れた路面の攻略に苦しみながらも9周目に2分14秒651をマークし予選22位。

決勝日(日曜日)の天候は曇。徐々に天候は回復し、プロシリーズの決勝(10周)はドライで行われました。13番グリッドの吉田選手、22番グリッドの地頭所選手ともに順当なスタートをきり、1コーナーへ。ダンロップコーナーで上り勢に接触があったものの、うまくすり抜け、吉田選手11位、地頭所選手14位でオープニングラップを終了します。吉田選手は3周目に1台、4周目にも1台抜き、9位にポジションアップ。6周目にも1台抜き、8位まで順位を上げます。前はスーパー耐久のチームメイト、#70 服部選手。吉田選手は服部選手に肉薄する走りを見せますが、抜くことができず、8位でチェッカー。5台抜きを見せ、記念すべき開幕戦でポイントを獲得しました。

一方、プロシリーズ2戦目の地頭所選手も善戦。オープニングラップを14位で終えた後、トップカテゴリーで活躍するプロドライバーたちに囲まれながらも4周目に1台、5周目に2台抜き、11位まで順位を上げます。7周目にも1台抜き、トップ10に進出しますが、ファイナルラップに追い上げてきた選手に抜かれ、11位でチェッカー。惜しくもポイント獲得はなりませんでした。今後の活躍に期待が持てる内容となりました。



#160
埼玉トヨペット GB BS GR86

吉田 広樹

決勝：8位

予選13位 (2分13秒965)

■予選後：雨の予選になり、タイムが出るタイミングがわからなかったため、走り始めから最後まで常にプッシュしました。ブリヂストンユーザーの中で、上位のタイムを残せているのは、チームが頑張っているおかげだと思います。ドライでも他のブリヂストンユーザーよりも前だったので、雨でもそれをキープできているのは良いことだと思います。なんとかポイント圏内までいけたらと思っています。

■決勝後：スタートはそこそこ良かったのですが、スペース争いで順位をおとししてしまいました。予選が13位だったので、8位で満足していますが、チームが力を入れて取り組んでいるのはわかっているし、ドライだったらもっと上にいけるぐらいの速さはありません。もっと頑張らないとチームに恩返しができないと思っています。



#522
GB CAMP BS GR86

地頭所 光

(86GB CAMP)

決勝：11位

予選22位 (2分14秒651)

■予選後：昨日の専有走行の時、初めてまとまった雨を経験したのですが、そこで自分の走りのいろいろなクセがわかりました。ウェットに対応しきれていないところを修正し、課題を克服したつもりでしたが、それでもタイムが出ない。自分の走りは向上したと思うのですが、まわりも上げてきたので、それ相応の順位になってしまったと思います。

■決勝後：22位スタートから11位。自力でたくさん抜けたのは良かったのですが、ちょっと行き過ぎた走りもあったので、そこは反省しています。昨年の最終戦に出場した時は、何もできなかったのですが、今回は個人的に飛躍できたレースだったと思います。今シーズン、やれそうだという感触は大いに得られました。これからもこのチームで走るのが楽しみです。

第2戦は8月20日~21日

スポーツランド SUGO (宮城県)

©2022 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.



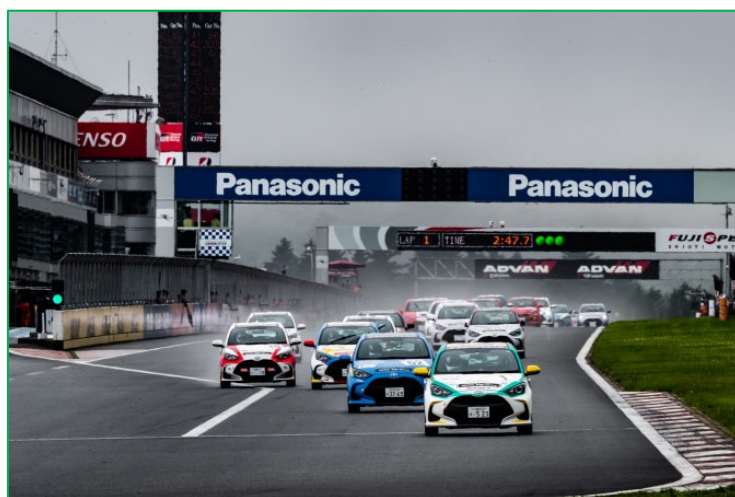
GAZOO Racing Yaris Cup 東日本シリーズ 第4戦

2022年7月16日(土)～17日(日)
富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■■■大森選手がポールトゥウィンを達成。ランキングトップに立つ■■■

第4戦は今シーズンの2ラウンド目。西日本シリーズの第2戦としても開催されるため、エントリー台数は非常に多く、なんと116台。ヤリスGBキャンプ2年目の大森選手が出場しました。

予選日(土曜日)の天候は曇。前日から降り続いた雨のため、路面はやや濡れている状態です。エントリー台数が多いため、予選は3つの組に分かれて行われ、大森選手はA組に出場。予選開始の合図とともにコースに入り、クリアラップがとれるスペースを作ります。大森選手は1回目のアタックで2分18秒862のトップタイムをマーク。路面は徐々に乾きつつ



あり、アタックを継続します。周回を重ねる毎にタイムが上がっていき、6周目に2分18秒011のベストタイムをマーク。A組のトップを獲得しました。この後に行われたB組、C組の予選時に雨が降ったため、大森選手のタイムを上回る選手は現れず、2戦連続のポールポジションが確定。事前にチームと決めた作戦通りの走りができ、大森選手は納得の表情です。

決勝日(日曜日)の天候は曇。雲の切れ間から日が射していますが、路面は一部濡れており、難しいコンディションです。大森選手はコースインの際、不安を抱えているスタート練習を行い、予選1位のグリッドへ。そのかいあってか、大森選手は好スタートを決め、トップで1コーナーに進入します。予選2位の#62松原選手の接近を許しますが、落ち着いてディフェンス。トップをキープして1周目を終えます。大森選手は松原選手を引き離すことができず、1秒前後の差を保ったまま周回。5周目に松原選手とテールトゥノーズになりますが、松原選手は最終コーナーで追い上げてきた#110TAGAMI選手に抜かれ、2位と3位が入れ替わります。大森選手はTAGAMI選手を引き離すべく、プッシュしますが、状況は明らかに劣勢。7周目のダンロップコーナーでTAGAMI選手に抜かれ、2位に順位を下げます。大森選手はリスクのあるトップ争いを避け、2位をキープしてチェッカー。しかしレース後、TAGAMI選手が車両規定違反で失格となったため、順位が繰り上がり、大森選手の優勝が確定しました。



#1
GB CAMP Yaris
大森和也
(Yaris GB CAMP)

決勝：1位

予選A組1位
(2分18秒011)
ポールポジション

■予選後：クリアラップをとるために、アウトラップで前に何台か入ってもガンガン抜こうと決めていました。まわりはめちゃくちゃ慎重に走っていたのでガンガン抜き、先頭から3～4番ぐらいの位置に。2～3計測目ぐらいで集団のトップに立てたので、そこからは自分のペースを信じて、普通通り走れば大丈夫かなと思っていました。

■決勝後：普通に勝つとは違ったうれしさがありますね。2位でよしというところで優勝が転がり込んできたので、ボーナスのような気分ですね。ぼくらは正しいことをやってきて、運営側もちゃんと判断してくれたので良かったと思います。無理に110号車に仕掛けたら、後ろの松原さんに追いつかれてしまうので、うまく切り替えができ、良かったと思います。

GAZOO Racing Yaris Cup 東日本シリーズ ランキング

順位	ゼッケン	ドライバー名	ポイント
1位	#1	大森和也	31
2位	#30	島 拓海	23
3位	#19	黒田保男	22
4位	#34	渡辺圭介	20
5位	#62	松原亮二	15
6位	#38	神谷裕幸	12

トップ6まで

第5戦 は8月21日
スポーツランド SUGO (宮城県)



PARTNERS



有限会社アイ・ディ・アイ



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



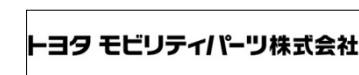
埼群スリーボンド株式会社



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



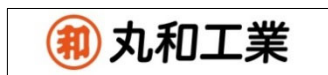
トヨタモビリティパーツ株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



株式会社ブリヂストン



丸和工業株式会社



株式会社リビコー



レカロ株式会社